

令和5年度 学校評価 自己評価書（二学期）

1 学校の重点目標

(1) キャリア教育の推進
(2) 確かな学力の定着
(3) 心に届く生徒指導
(4) 健康・体力構造の増進
(5) 特別支援教育の充実
(6) 人権教育の充実
(7) GIGAスクールを踏まえたカリキュラム・マネジメント
(8) 信頼される学校づくりと業務改善の推進
(9) 小中連携の充実

2 課題と改善策

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
力の 確かな 学 定着	1 各種調査による学力の実態把握	3.2	・ ICTを使った個別最適な学びに取り組 み始めている。実践を共有することが必要 である。
	2 WEBシステム問題の実施	3.1	
	3 タブレットの活用による個別最適な学びの取組	3.2	
	4 授業と家庭学習の関連付け	3.2	
生徒 心に 届く 指導	1 積極的生徒指導の実践	3.2	・ 組織的な生徒指導を行うために、共通理 解・共通実践が必要であることを確認した。 ・ サポートルームが不登校生徒の居場所づ くりとして機能している。
	2 いじめの未然防止や早期認知	3.5	
	3 特別活動の工夫	3.4	
	4 不登校・不登校傾向生徒への支援	3.3	
向 上 の 健 康 ・ 体 力 の 推 進	1 基本的な感染症予防の実践	3.5	・ 感染症に対してはマスク着用の指導や CO ₂ モニターを活用した換気ができている。 ・ う歯の治療状況についての確認を行うこ とで、病院受診を促した。
	2 体力等の向上	3.4	
	3 生徒の安全意識の向上に関する取組	3.5	
	4 SSTの授業の実施	3.1	
教育 の 充 実 特 別 支 援	1 個別の支援計画・指導計画の作成と活用	3.0	・ 特別支援教育校内委員会を行い、支援を 要する生徒への配慮の状況や課題につい て検討した。
	2 チームによる支援体制の確立	2.7	
	3 SC, SSW, 相談員等関係機関との連携	3.0	
の 充 実 人 権 教 育	1 Momを踏まえた生徒理解	3.0	・ 全職員で道徳の授業を行うことが定着す るようになり、生徒も意欲的に取り組む姿 がみられる。
	2 学校全体での道徳の授業の実践	3.4	
	3 言葉の重みへの意識の向上	3.1	
	4 よさに着目した生徒理解	3.1	
マ ネ ジ メ ン ト カ リ キ ュ ラ ム	1 評価と指導の一体化	3.1	・ タブレット端末の充電ができないトラブ ルがみられたので、対応策を確認した。 ・ CBT 実施に向けた準備が必要である。
	2 GIGAスクールに必要な技能の習得	3.0	
	3 授業における生徒のタブレット活用	3.0	
学 校 信 頼 さ れ る づ く り	1 勤務時間を意識した業務改善	2.6	・ 各種通信による情報発信は、保護者アン ケートからも高い評価を得ている。 ・ 生徒会美化部の環境コンクールの取組を 行うことで、クラスの設営の更新がなされた。
	2 服務規律の厳正確保	3.6	
	3 保護者や地域への情報の発信	3.3	
	4 校内の設営の工夫及び整理整頓	3.3	
連 携 小 中	1 小中間の情報交換や共通実践事項の実 践	2.9	・ 小・中連携共通実践事項で取り組んだ内 容を教科部会等で共有できた。

※ 職員の評価は、学校全体の取組を4段階で評価し、その平均値を示している。

3 次学期に向けての取組

- ルールメイキング委員会の話し合いを通じて、学校生活のきまりについて合意形成を図る。
- タブレット端末を使った授業が増えてきたので、授業改善の手立てとして効果的に活用するために、来年度の単元計画に位置付けることが必要である。
- 総合的な学習の時間の教育計画について、探究的な見方・考え方を働かせることができるように見直しする必要がある。